



中高生とともに差別と闘う

『語りつながる』

吉成タダシ (うずしおランチ代表)



「ふるさと」からフクシマへ

前号に引き続き行なった三年生最後の学年全体人権学習のテーマは、結婚差別でした。その授業での私からの発問は、一つ。

「詩『ふるさと』のなかで自分に刺さった言葉を通して、大切な友へ、大切な家族へ、大切な故郷へ、自分のなかにある『思い出』を添えて言葉を贈りましょう。」

結婚差別がテーマといいながら、そのことについての直接的な問いかけではありません。それまでに結婚差別について学び合い、講話も聴き、そのうえで三年間を総括する最後の語り合いの時間にしたかったのです。

授業の終盤、これまでの学びや経験をふりかえり、また「ふるさと」に重ねて思いを語ります。

「私は『瞳をあげ 何のためらいもなく、これが私のふるさとです』と名のらせた」という言葉が一番刺さりました。『ふるさと』というタイトルを見て、二年生のときに東日本大震災の福島県

の原発事故の学習を思い出して。あの時も故郷と自分の関係、故郷が自分にとってどんなものなのかというのを考えた時間だったと思うんです。みんな誰しも故郷に誇りをもっているはずだし、故郷のことが好きでいるはずだから、それを自分と出身が同じじゃない人にも誇りに思えるような世界をつくっていききたいです。」

驚きました。よもや一年以上も前に学び合ったフクシマのことが

出てくるとは思いもしませんでした。

フクシマから「ふるさと」へ

それに呼応するかのよう、隣にいた子がマイクを握ります。

「『お前には胸張ってふるさとを名のらせたい』っていう言葉が心に残りました。この詩を見て、昨年の夏に吹奏楽部で県主催の音楽会に参加したことを思い出しました。最後の全体合奏の曲は、この詩と同じ題名の嵐の『ふるさと』でした。曲の歌詞には『ここはふるさと』と何度も繰り返されていて、その日会う人もたくさんいました。みんな故郷は同じで、人生の途中でここに集まっているっていうことにとっても感動しました。今まで学習してきた同和地区出身の人も、自分の故郷を大切に誇りをもっていました。それは私も同じであると感じました。産まれた場所や育った場所に関係なく、それぞれの故郷に思いを馳せる曲と詩から、故郷の大切さを感じました。」

部落差別による結婚差別を扱った詩「ふるさと」がフクシマにつながり、フクシマが別の「ふるさと」につながる。思いもしないような発言が、思いがけない展開を生んでいきます。これが、語り合うことの醍醐味です。一人の発言のなかに湧きあがった思い出を通して、知らなかったその子の思いにふれ、また一つ「人を知る」よるこびが私の中に溢れます。これは自分一人の経験や発想では、絶

対にあり得ません。でも、人の思いや経験を聞くことで、自分にはなかった発想や感情が生まれ、新たな気づきが胸のうちにポツと灯るのです。あたたかい気持ちになるのです。

語りつながる

最後の学年全体人権学習ということも手伝ってか、学年の先生方の手も挙がります。ある先生は、「大切なものは失って初めてその大切さに気づく」と話されました。それにそれぞれが、思い思いに語ります。

「先生の、離れたたり失ってから大切なものに気づくっていう話を聞いて。先週のテスト前日に、いつも私おばあちゃんちに一度帰ってから家に帰ってるんですけど。帰ったらおばあちゃんち誰もいなくて、どうしたのかなと思って。そしてたらおばあちゃんち慌てて家に帰ってきて、おじいちゃんちが救急車で運ばれたって言うって。おじいちゃん散歩好きなんですけど、こけて立てなくなっちゃって救急車で運ばれたみたいで。それ聞いたとき、おじいちゃんいけるんかなっていう心配で、すごい不安になって。病院からいつ退院できるとかの話を聞くまですごい不安で。おじいちゃんちの命に別条とかはなく、家に帰ってきて治療したら大丈夫っていうことになって安心したんですけど、そのときに、失う怖さっていうのを味わって。今まで伝えたかった感謝とか突然伝えられなくなるような恐怖を味わって。」

たので、これからは自分の周りの人にも、自分の家族にも、常に感謝を伝えられるようになりたいと思います。

「私にはすごい大切な友達がいる、小学校のころからずっと仲良くしてもらってたんですけど。小っちゃい頃、すごいデリカシーのない言葉というか、すごい嫌らしい言葉みたいなことを結構言っていました。その子はそれを、何でそんなこと言うん、みたいな笑い話というか笑い飛ばしてくれただけど、今考えると本当に器広しい、すごいやさしいなと思って。『人はやさしくすると人にやさしくされる』っていうけど、その子もいろんな子から、やさしい子みたいなイメージもあって。けどその子もコンプレックスと向き合って強くなれたから、人にそんなふうによさしくできたのかなって思っています。私もその子みたいに自分の弱さと向き合って強くなりたいし、その友達に今までひどいこと言ってごめんねとか、許してくれてありがとうっていう言葉を伝えたいです。」

マイクを握りしめ、心にいっぱい汗をかきながら、一生懸命に語ります。それぞれにある、それぞれの思い。「頑張れ！頑張れ！」と胸の中で連呼してしまっています。

資料の中身に終始する授業を見ることがありますが、そうではありません。資料を通して、みんながそれぞれの思いを語り合うのです。それが本当の人権学習です。

(つづく)